



今月の主な内容

- 119番通報とAED……………2～4
- 平成18年度町表彰式……………6
- 軽米雁舞館全国大会に挑む…10～11
- 生涯学習フェスティバル……………12～13

「早く救急車をお願いします！」事故や急病などさまざまな状況が待ち構える119番通報。救急救命活動は、一分一秒の対応がかけがえのない命の行方を左右します。わたしたちが安心して暮らせるのも、救急時にも冷静に確実に対応してくれる救急隊員の存在があるからです。隊員は日々の訓練と技術の習得に余念がありません。(写真は、二戸消防署軽米分署で行われている実践を想定した救急救命訓練)

① 119番通報します

- ・ 町内の一般固定電話から119とダイヤル⇒軽米分署の救急へ通報
- ・ 町内の一般固定電話から46-4119とダイヤル⇒軽米分署の一般電話に通報
- ・ 町内で携帯電話から119とダイヤル⇒二戸消防署に通報

② 通報を受け、救急隊が現場に向かいます

- ・ 救急隊は、救急車を現場に向かわせながら、同時に患者さんの状態をできるだけ把握し、現場での迅速・適切な処置に備えます

③ 消防署員に状況をお話してください

- ・ 通報者(自分)について 氏名、住所(行政区と地割地番)、電話番号
- ・ 救急対応が必要な人(傷病者)について 誰が、どこに(屋内、屋外など)、どのような症状か

④ 通報者は、救急隊が到着するまで現場に必ず居てください

- ・ 通報者は救急隊が到着するまで現場に居て、患者の状態の変化を観察したり、必要によっては人工呼吸、AEDなどの応急手当を行ってください

⑤ 病院などへの搬送には家族も同乗ください

- ・ 患者を救急車で病院等へ搬送する際には、家族の方が同乗します。その際に、患者の病歴や入院歴、その他詳しい症状などを確認することがあります



かけがえのない大切な命を救うために

わたしたちの毎日の生活に安心を与え、万が一のときには駆けつけてくれる心強い救急車。町内の救急業務の体制は、二戸広域行政事務組合(管理者一戸町長稲葉暉)で運営する二戸消防署軽米分署(田村利明分署長、以下「軽米分署」)に9人の救急隊員と1台の高規格救急車両で対応しています。救急業務の状況とわたしたちにもできる心肺蘇生法について紹介します。



【左から】救急救命士の長興寺一弘消防士長、脇澤忍消防士長、救急隊員の橋本徹消防士、戸草内剛消防士

119番通報は近年増加傾向

皆さんは「119番」通報で救急車を呼んだことがありますか？

災害や交通事故、急病などで医療機関への緊急搬送が必要な場合に、救急隊が搬送を行うことが救急業務です。

平成十八年一月から十二月までの一年間で、町内で救急車の出動要請があった救急業務は三百五十二回。およそ一日に一回の割合で出動していることになりました。中でも、高齢化の進行などで、急病によるものが二百二十一件と約六割を占めています。

年次別に見てみると、昭和五十年から増減を繰り返しながら二百件台を維持してきましたが、平成八年以降は三百件を超え、十六年の四百四十四件をピークに、ここ数年は三百件台で推移しています。

このように、119番通報はわたしたちの生活においても、より身近で、いざという時にはなくてはならない存在になっています。

救急救命士の役割が拡大

現在、軽米分署には救急救命士が三人配属されて、救急隊員と常時三人体制で救命活動にあたっています。

近年、早い段階での応急措置が救命率の向上につながることを報告されており、特に専門知識・技能を持ち、現場にいち早く駆けつける救急救命士の役割が大きくなってきています。

軽米分署でも、心肺停止者

への気管挿管や点滴などの処置が可能な資格・技能を持った救急救命士を配置するなど、救命率向上に向けた救急体制が整備されています。

早目の手当が救命率を上げる

救急隊員は、119番通報の現場を確認し、すぐに行動し、通報者からの情報をもとに現場での対応に備えながら救急車を走らせます。しかしながら、119番通報を受けてから現場に到着するまで

にはどうしても時間がかかってしまいます。(町内で要する平均時間は、約七分とされています。)

この間に必要なのが、わたしたちにもできる応急手当です。その一つが、心肺停止者への人工呼吸や心臓マッサージ、自動体外式除細動器(AED)による心肺蘇生法です。

呼吸が止まると脳に酸素が送られなくなり、脳細胞の一部が損われてしまう恐れもあります。救急車が到着するまでの間、心肺蘇生を実施する

ることで救命率が大きく向上することが分かっています。

心肺蘇生法を習得しましょう

こうした心肺蘇生法は、訓練を行えばどなたでも行うことができます。

軽米分署では、皆さんがこの心肺蘇生法の知識と技術を習得するための講師の派遣や、講習会の開催を行っていますので、お気軽にご連絡ください。(問い合わせ 四六一一九)

救急の現場から



救急救命士の長興寺さん

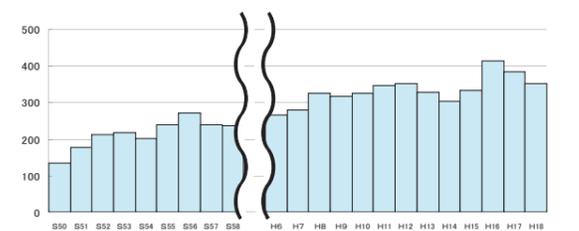
皆さんの家庭などで急病人やけが人が出た場合に、一刻も早く病院に運んでほしいとの声は切実です。

わたしたち救急救命士・救急隊員は、医療機関での研修や日々の搬送訓練を重ね、患者さんを少しでも良い状態で病院などに搬送できるように最善の努力を行っています。

的確な判断と適切な処置が要求される救急の現場では、患者さんの呼吸・脈拍・血圧・体温などのほか、家族の皆さんからの情報が重要な判断材料になります。焦らずに落ち着いて救急隊員のお話に耳を傾けてください。

通報者や家族との連携が、迅速で的確な対応を可能にします。皆さんの協力をお願いします。

年次別救急出動回数の推移(昭和50年~平成18年)



AED心肺蘇生法が命を救う

心臓発作の突然死 8割が心室細動

国内での心臓発作による突然死は、年間に五万人とも言われ、交通事故死よりはるかに多い状況にあります。心臓発作による突然死の8割以上が「心室細動」と言われる不整脈が原因となっており、心室細動は、心臓の筋肉がけいれんを起こし、ポンプの役割を果たせなくなってしまう状態です。

うもので、血液が送られずに意識を失ってしまいます。また急性心筋梗塞の死亡例の半数以上は、病院に運び込まれる前の心室細動が原因の突然死となっています。

無事に病院に運び込まれ冠動脈疾患集中治療室（通称「CCU」）に入院できれば、死亡率が十割以下と大幅に助かる確率が高まる一方、心室細動によって心臓が停止した状態で運び込まれてから

では、命が助かる可能性は五分程度とされています。

AEDで救える かけがえのない命

心室細動が発生してから、心臓が再び正常な活動を始めるまでの間、命が助かる確率は一分ごとに約十割ずつ減少していきます。このため、一分でも早くこの心室細動を取り除くことが、命を救うことにつながります。数分以内に除細動できれば救命率は五倍にも増加し、多くの人は後遺症も残さずに社会復帰することが可能になるのです。

その治療法として、電気的除細動（電気ショック）があり、誰でも操作を可能にしたものが自動体外式除細動器（AED）なのです。AEDは、心電図を自動的に解析して、電気的除細動が必要かどうかを判断してくれます。操作は簡単で、音声でも教えてくれるので、医学知識が無くても安心して使用できるのが特長です。多くの皆さんがAEDの心肺蘇生法を習得することで、一つでも多くの命を救うことにつながります。



AEDは心臓マッサージなどの心肺蘇生法と組み合わせることでより効果的な救命活動が可能になります（写真は2月4日に町防災センターで開催された町婦人消防協力隊による講習会）

心臓マッサージとAEDによる心肺蘇生法の手順を覚えよう

- ①意識の確認 軽く肩を叩きながら声を掛けて意識を確認します。意識が無い場合には協力者を呼び、救急車を依頼します
- ②119番への通報
- ③気道を確保します 額に片手、あごに指2本をあて、持ち上げて気道を確保します
- ④呼吸を調べます 気道を確保しながら、相手の口と鼻、胸の動きを見ながら呼吸の有無を確認します
- ⑤人工呼吸を行います（続けて2回行います） 呼吸が無い場合には人工呼吸を行います。1秒かけて胸の上がりが見える程度に息を吹き込みます
- ⑥心臓マッサージを30回と人工呼吸2回で1セットを5回行います
- ⑦AEDの電源を入れる 最初に電源を入れます
- ⑧電極パッドを胸に貼ります 電極パッドを心臓を挟むようにしっかりと貼り付け、ケーブルを差し込み口に入れます
- ⑨心電図の解析後、除細動を開始します 音声メッセージに従って、傷病者から離れます
- ⑩除細動のスイッチを入れます 音声メッセージに従って、除細動が必要な場合にはスイッチを入れて除細動を行います

生活安全の森 二戸警察署軽米駐在所

新入園・新入学の春 交通事故や犯罪から子どもたちを守ろう

●地域の子どもは地域で守ろう
子どもが犠牲となる事件・事故が、全国で増加傾向にあり、多くの場合が下校時間帯に、通学路上で発生しています。

交通安全や不審者情報などに注意して、「地域の子どもたちは、地域で守る」という意識で地域ぐるみで取り組みましょう。

●交通事故は身近な危険から
春は新入学・進級などで、子どもたちは新しい友だちもできるなど、行動範囲が広がります。屋外や道路など、危険は身近なところに潜んでいます。家の近くだからと言って、気を緩めずに注意を払きましょう。

●大人がお手本になります
子どもは、大人の行動をよく見えています。良いことも、悪いことも真似をします。日ごろから、正しい交通マナーを実践し、手本を示しましょう。

●通学路の安全点検を
子どもと一緒に通学路を一度歩いてみましょう。普段は気が付かない危険な箇所が見えてきます。

1月の事故と救急の数字

※見直しにより前月の数値と異なる場合があります
※（累計）は1月からの合計

▶町内の交通事故	当月（累計）	昨年比
人身事故	1件（1件）	±0
死亡者	0人（0人）	±0
負傷者	1人（1人）	±0
物損事故	16件（16件）	+6
▶救急車の出動回数	33回（33回）	+5
▶飲酒運転検挙者はありません		



小玉川小児童は車いすと自分たちで仕上げた木炭5kgもプレゼントし、いちい荘利用者との触れあい交流も楽しみました

小玉川小から いちい荘へ

善意と真心の車いす贈る

小玉川小学校（菊池敦子校長、児童二十四人）は二月二十三日、空き缶収集の益金で購入した車いす一台を町特別養護老人ホームいちい荘（竹下光雄所長）に贈りました。同校では環境学習で空き缶のリサイクルなどを学び、地域の人たちから協力を得ながら、一年間で約三万個を収集。いちい荘への車いすの寄贈は五年目になります。

この日は六年生の三人が訪問。鎌田聡くんが「地域の協力で購入したみんなの真心こもった車いすです」と山本賢一町長に引き渡しました。

春の芸能まつり10周年で車イス寄贈



華やかなステージに大きな拍手が送られた春の芸能祭り

町芸能愛好会（小林一郎会長）主催の花の新舞踊チャリティーショー・春の芸能祭り十周年記念公演が二月二十五日、町民体育館に約七百人を集めて賑やかに開催されました。町内や近隣市町村からの舞



町社協に車いすが寄贈されました

踊愛好者全三十三組、延べ百人が出演。館内に設けられた特設ステージで、華やかな衣装を身にまとい、曲目に合わせた自慢の踊りが披露されました。朝早くから駆けつけた観客は、拍手を送りながら一足早い春の舞台を楽しみました。

舞台上では、開催十周年を記念して主催者から町社会福祉協議会に車イス一台が寄贈されました。同協議会の菅原皓文会長が「芸能愛好会をはじめ会場の皆さんからの贈りものと思つて、暮らしやすい町づくりに役立てたい」とお礼を話していました。

わたしが考える 軽米の町づくり

平成17年度軽米町小中学生の 生涯学習作文コンクール表彰式

平成17年度に町生涯学習推進本部（本部長＝山本賢一町長）が募集した町小中学生の生涯学習作文コンクールの表彰式が2月28日、役場庁舎で行われ、入賞した18人に表彰状が贈呈されました。受賞された方は、次のとおりです。（敬称略、応募時の学年は小学校は5年生、中学生は2年生）

★小学校の部



【最優秀賞】梅木大幹（米田小）

「ぼくが町長になったら」（雑穀の缶詰工場をつくり、雑穀の栽培から加工、雇用の場にしたい。雑穀と若者の雇用、特産品開発と販路拡大を手がけたい。みんなが助け合っていく町を創造したい）

【優秀賞】長瀬武継（晴高小）

「雑穀で町おこし」

【奨励賞】大西優香（晴高小）、日脇崇史（軽米小）、小笠原美瑞萌（軽米小）、門前実希（軽米小）、鶴飼一喜（笹渡小）、長井茉侑（観音林小）、山下莉奈（山内小）

★中学校の部



【最優秀賞】増尾瑞希（小軽米中）

「軽米町から全国に」（老人ホームと保育園を併設し、老人と子どもたちの交流で新しい発見と新鮮で刺激的な日々を送ることができ、子どもたちは命の貴さなども学ぶきっかけにもつながる。軽米から全国に発信したい）

【優秀賞】小笠原秋陽（軽米中）

「僕が町長になったら」

【奨励賞】高林亜矢子（軽米中）、一條彩（小軽米中）、山崎久美子（笹渡中）、関紗采（晴山中）、木村成美（軽米中）、百鳥春香（笹渡中）、日山雪菜（小軽米中）



最優秀賞と優秀賞受賞者（敬称略）

【読書感想画部門】

◎小学校1・2年の部

最優秀賞 高田野乃華（米田小2年）

優秀賞 苅谷玲奈（晴高小1年）

【読書感想文部門】

◎小学校3・4年の部

最優秀賞 松谷枝穂（小軽米小4年）

優秀賞 百鳥礼（笹渡小3年）

◎小学校5・6年の部

最優秀賞 横島敬子（軽米小6年）

優秀賞 山谷悠花（山内小5年）

◎中学校の部

最優秀賞 古川雪乃（笹渡中2年）

優秀賞 古里裕幸（晴山中2年）

心に残る1冊

平成18年度町小中学生 読書感想文・感想画コンクール表彰式

平成十八年度の町小中学生読書感想文・感想画コンクールの表彰式が二月十六日、役場で行われました。

全八百六十四点の応募作品の中から、小学校低・中・高学年と中学生の各部門ごとに最優秀賞と優秀賞をそれぞれ一作品ずつ選考。受賞者に中野新一町教育長から表彰状と記念品の図書カードが贈られました。

審査委員長の小平光子観音林小学校長が、受賞者一人ひとりについて講評を行い「皆さんの作文には、それぞれの思いが込められていた。これからは、自分の心に残る一冊一冊を大事にしてほしい」と話していました。

お口の健康が長寿の秘訣

イー歯トープ 8020表彰



表彰式に出席した3人の被表彰者の方々【左から】

- 西山三太郎さん（81歳、下新町）
- 福島キエさん（88歳、向川原）
- 輪達仁太郎さん（82歳、本町）
- 館林スエさん（82歳、萩田）
- ※館林さんは欠席

平成十八年度イー歯トープ8020コンクール（県歯科医師会主催）の表彰伝達式が二月二十三日、健康ふれあいセンターで開催された町歯科保健部会（堀米栄一会長）の席上で行われました。

同コンクールは、いつまでも自分の歯で食事ができることをめざし、八十歳で二十本以上の自分の歯をお持ちの方を顕彰するもので、本年度は四人の方が表彰されました。

「歯磨きは毎日欠かさないが、好き嫌がなく食べるなど丈夫な歯を作ることも大事」などと、健康な歯と体の秘訣を話していました。



式典で山本町長に代表謝辞を行う細谷地さん（右）

平成18年度軽米町表彰式

1団体と 個人7人を表彰

平成十八年度町表彰式が二月二十日、農村環境改善センターで開催され、町勢の発展に功績のあった個人七人と一団体に表彰状が贈られました。被表彰者と功績を紹介します。

式典では、受賞者一人ひとりに山本賢一町長から表彰状が手渡されました。

山本町長は式辞で「長年にわたり各分野で他の模範となり、業績を残された皆さんの努力に敬意と感謝を表します」と述べ、受賞者の功績をたたえました。

代表謝辞を行った細谷地安美さん（高柳、六十九歳）が「今日の感激を胸に、一層心を引き締めながら、今後も努力していきたい」とさらなる活躍を誓っていました。

表彰されたのは、次の方々です。



ほそや ちやすみ
細谷地安美さん
（高柳、69歳）

【畜産振興】
第五十回岩手県畜産共進会・馬の部で「第八姫」が、軽米町では初となる最高賞の名誉賞を受賞



しみず ちよこさん
清水 ちよこさん
（蓮台野、76歳）

【保健福祉分野】長年にわたり軽米町食生活改善推進委員として健康保健衛生の向上に貢献



ふるたけ ともひろ
古館機智男さん
（荒町、63歳）



おの しげる
小野 茂さん
（荒町、68歳）



ちば こうわ
千葉 孝和さん
（大町、68歳）

【商工振興】
長年にわたり軽米町商工会役員として地域商工業の発展と商工会運営に貢献



おおかわ みつこ
大川 光子さん
（蓮台野、71歳）



ひやま きょうこ
日山 京子さん
（車門、72歳）



実行章を手にする小笠原生徒会長（左）と福嶋校長

地域への奉仕活動に親切実行章

晴山中学校（福嶋敦史校長、生徒九十四人）に一月二十五日付けで「小さな親切」運動岩手県本部（代表 永野勝美岩手銀行頭取）から「小さな親切」実行章が贈られ、二月七日に同校で伝達式が行われました。

同校が、平成元年から継続して取り組む校内や国道花壇整備や清掃活動は、地域の方々の協力をいただきながらやっている。今後も先輩から受け継いだこの活動を続けていきたい」と意欲を見せていました。昨年にはチューリップの新年根千六百個を植栽するなど、年々活動を広げています。



軽米中学校吹奏楽部
【左から】嵯峨進校長、金田早世吹奏楽部長、阿部山美保子先生

【文化関係分野】平成十八年度全日本吹奏楽コンクール岩手県大会で金賞を受賞



出会い、発見、驚き、そして別れ...

平成18年度中高生海外派遣研修から帰国



派遣研修団团长
軽米中学校
嵯峨 進 校長

軽米町・一戸町ともに、過去の研修においてそれぞれの生徒が貴重な体験をし豊かな国際感覚を身につけ、社会で活躍していることを思い、今回の生徒もぜひそうなることを願いながら研修に臨みました。

今回参加した13人の中高生は、積極的に、そして真剣にこの研修に取り組みました。その挑戦は見事でした。子どもたちの順応性の高さには「すごい」の一言です。日を追って表情が変わり、自信を持って行動する姿に頼もしさを感じると同時に、日本文化への理解を深めるきっかけをつかんだようでもありました。今後、日本文化の「何」に光を当てて理解を深めていくのか、大いに期待したいと思います。

国際交流が進展する社会にあって、中高生が異文化に触れることは大きな意義があります。今回の研修が、生徒たちの将来の夢を実現する手助けとなればと思っています。この経験をスタートに、さらに次の夢を求めていくことを願っています。



積極姿勢が可能性を広げる



みなかわ たつや
皆川 達哉 くん
(軽米中2年)

事前研修などを行いなから、出発が近づくにつれ緊張感に不安、そして期待が膨らんでいった。ホストファミリーは三人家族のヒッコリーさん宅で、お土産の千本松と軽米そうめんをこちそうすると「こちもおいしい」と好評でした。家族と一緒にボイスカウトにも参加し、ボランテアを進んで行っていることを素晴らしく思いました。学校訪問では、日本の文化や昔遊びの紹介、習字を教えたりしました。日本の漢字に興味を示してくれました。和やかな雰囲気でお話をすることができました。

文化や昔遊びの紹介、習字を教えたりしました。日本の漢字に興味を示してくれました。和やかな雰囲気でお話をすることができました。

研修で感じた刺激を忘れない



ささかわ しき
笹川 沙樹 さん
(軽米高2年)

研修には、自分の視野を広げ、たくさんのことを感じ、自分を成長させたいと思つて参加しました。ホームステイや学校訪問などを通して、日本との違いをたくさん体験しました。研修先の中学校や高校では、生徒が自分の意見をしっかりと持っていることに驚きました。疑問に思ったことはすぐに図書館に行つてとことん調べていました。自分と同世代なのにこんなにも違うんだと思ふ、自分の思考力の無さを痛感しました。研修を通して、自分を見つめ直し新たな課題を見つけることができました。もっと物事を深く考えたり、徹底的に調べたりして自分の意見をしっかりと持つ努力をすることが大切です。たくさんこの研修を通して、自分の成長の糧にしたいと思います。

日本を見直すきっかけに



わかみや みさこ
若宮 美紗子 さん
(軽米高2年)

研修に参加した大きな目的は、自己の英語力の確認と向上、将来英語を生かした仕事をするための足がかりとすることでした。英語にはある程度自信があったのですが、最初は聞き取りも、伝えることもできなくて力の無さを痛感しました。もっと必死になつて英語を磨いていこうと心に誓いました。ホストファミリーとの生活では、肉やコーラなど高カロリーな食事で、日本の食事がいかに素晴らしいかを体感することができました。普段何気ない食事を見直すきっかけにもなりました。学校授業は、小学一年生はローマ字や数の数え方など日本と同じでしたが、高校での数学は日本のほうが進んでいると感じました。言語は違つても別れを惜しむ気持ちは共通であることや、食文化や学習に対する意識の違いなどを深く学ぶことができました。

この感動は人生の宝に

印象に残った文化の違いとファミリー



ふるかわ ゆきの
古川 雪乃 さん
(笹渡中2年)

いざアメリカへ。期待と不安を胸に旅立ちました。到着後すぐ、大きくてカラフルな建物や量が多くて青や緑の食べ物に驚き、日本との文化の違いを身近なところから実感しました。印象深かったのは、ファミリーのみんなが本当の家族のように優しく接してくれて嬉しかったこと。わたしももっと家族に解け込みたいと思うようになり、安心することができました。ホームパ

ーティに驚き、訪問先の学校では授業中の立ち歩きや寝ていたりして自由の文化を感じました。お別れのとき、初め、四日間は長いな一と思つていましたが、過ごしてみると早く感じ、やっとなファミリーと積極的に話せるようになったので、別れるのはとてもつらかったです。研修を通して、言葉が通じなくても伝えたい気持ちがあれば伝わることを知りました。この経験を無駄にすることなく、生かしていきたいです。

日本文化の良さをあらためて実感



よこしま あさみ
横島 麻美 さん
(軽米中2年)

研修には、自分の視野を広げ、たくさんのことを感じ、自分を成長させたいと思つて参加しました。ホームステイや学校訪問などを通して、日本との違いをたくさん体験しました。研修先の中学校や高校では、生徒が自分の意見をしっかりと持っていることに驚きました。疑問に思ったことはすぐに図書館に行つてとことん調べていました。自分と同世代なのにこんなにも違うんだと思ふ、自分の思考力の無さを痛感しました。研修を通して、自分を見つめ直し新たな課題を見つけることができました。もっと物事を深く考えたり、徹底的に調べたりして自分の意見をしっかりと持つ努力をすることが大切です。たくさんこの研修を通して、自分の成長の糧にしたいと思います。

世界で特に技術が発達しているアメリカに、研修で行けることになって楽しみでしかたがなかったです。空港の税関では、入国審査が厳しく張り詰めた空気が漂っていました。スーパーマーケットでは、何もかもがビツグサイズで種類も豊富で、その中に豆腐や日本酒などがあり日本文化があることが嬉しかったです。ホームステイ先で、味噌汁と厚焼き玉子を作ると、お父さんとお母さんが慣れない箸を

持って頑張つて食べてくれました。また仏教について質問されても答えられなくて、事前に勉強するべきだったと反省しました。十二時間の飛行を終え帰国。今まで気づけなかった日本の「おい」を感じました。研修で感じたのはアメリカは自由だということ。でも日本には日本の良いところがあり、だからこそアメリカに日本文化が入っているのだと思えました。高校生や一戸町の人などと一緒にいくことができるとても嬉しかったです。

町内中高生の海外派遣が一月四日から十一日までの日程で実施され、町立中学校四校と県立軽米高等学校から七名が参加。一戸町教育委員会と初めて合同で実施された今回は、一戸町内の中学生六人も参加しました。一行は、アメリカ合衆国西海岸のカリフォルニア州サンフランシスコでホームステイをしながら、ホストファミリー（受入家族）との日常生活や学校訪問を通して、日本とは異なる文化や歴史、風土などに直接触れました。一月三十一日に役場で行われた帰国報告会の中から、研修の感想などについて紹介します。

文化の違いに広がる視野



やまもと あゆみ
山本 彩未 さん
(小軽米中2年)

「アメリカの匂いは独特だ」現地に着いて初めに思ひ、実感がわいてきました。この海外派遣を通して文化の違いを深く知ることが

できました。ファミリーのフレンドリーな性格に不安は無くなり、楽しく過ごすことができました。おらかな性格が、戸惑うわたしを救ってくれました。次に食事です。普段の食事は個人ごとなので、家族と一緒に食べる日本では家族との時間を大切にしているように感じました。日本文化の一つ「こたつ」の良さもあらためて知りました。日本が恋しく思つたせいかもしれません。日本を離れて初めて感じました。外国人が日本に来るのは、日本文化を求めてやってくるのでしょうか。わたしは日本文化の素晴らしさを更にさまざまな人に伝えていかなければならないと思っていました。さらに積極的に英語を学習し、広い視野で世界の文化の違いなどを学んでいきたいと思いました。

アメリカ「初」体験



やまやま 恭代 さん
山本 恭代 さん
(晴山中2年)

サンフランシスコに着いて最初に感じたことは「香りが違う」ということでした。日本と一味違う、異国情緒漂う、そんな香りです。アメリカの人に触れ思つたのは、アメリカは「個人」と「自由」を尊重する国で、日本は「集団」と「規律」を尊重する国であることです。なぜかと言うと、授業中でも私語をしたり飲食を

したりと日本では考えられない光景だったからです。私服やアクセサリーなどたいへん驚きました。ホームステイ先でのシリアルやピザ中心の食生活に食文化の違いを感じ、あらためて日本食の良さを知りたくなりました。やっぱり和食はおいしかったです。ファミリーは、日本語がまったく分からなくて不安でしたが、英文を分かりやすく話してくれたら優しい人ばかりで、とても素晴らしい時間を過ごして、たくさんの思い出ができました。この経験を無駄にせず、将来に生かしたいと思います。

獲得した優勝旗6本

軽米雁舞館3月に全国に挑む

軽米雁舞館の歴史は、昭和三十年に故並岡武男さんの指導のもとで始まりました。結成十年目には全国大会で優勝を収めるなど、五十年を超え、長い間に数多くのタイトルを獲得してきました。

そうした中、平成十八年度の軽米雁舞館は快進撃を続け、ついに団体で出場した六つの大会で優勝。個人でも主将の坂本隆磨くん（軽米小六年）を中心に四回の優勝を飾っています。団体で獲得した優勝旗の数は六本。特に六月の県知事杯では、Aチームが優勝、Bチームもベスト八に入り、全国大会へのアベック出場を果たしました。

三月二十七日から岡山県で開催される全国スポーツ少年団交流大会に出場が決定し、現在猛稽古に励んでいます。六年生八人にとっては、軽米

雁舞館の剣士として最後の大会。男女混合の団体戦で行われるこの大会は、チーム全体の総合力で、上位入賞をめざします。

軽米の地で生まれ、半世紀にわたり地域の人の手によって継承されてきた軽米雁舞館。創始者の並岡さんの後にも、雁舞館OBらが中心となって指導にあたり、伝統を守り続けてきました。これからは軽米雁舞館から全国に通用する選手の育成、チームづくりを目指します。



★軽米雁舞館（かるまいがんぶかん）

昭和30年に始まった町少年剣道が前身。39年には初の全国優勝を達成。46年の町民剣道場設立に合わせて雁舞館と命名。初代館長は故並岡武男氏（範士8段、岩手県剣道連盟名誉会長）。平成19年3月1日現在の会員数は、男女合わせて25人。軽米中学校剣道部との合同練習などで技術向上に取り組んでいる。

平成18年度の栄光の戦歴（敬称略）

- ▼第51回北岩手南青森下川杯少年剣道大会（平成18年4月29日・青森県三戸町立体育館）（団体）高学年優勝
- ▼第33回黒潮旗少年剣道大会（5月7日・宮古市総合体育館）（団体）高学年優勝（個人）坂本隆磨優勝、小笠原慎二準優勝
- ▼岩手県知事杯争奪第45回岩手県少年剣道大会（6月18日・県営武道館）（団体）雁舞館A優勝、雁舞館Bベスト8 ※A、Bともに全国大会出場決定
- ▼第41回全日本少年剣道錬成大会及び全日本小中学生個人選抜大会（7月26日・27日・日本武道館）（団体）第1コート準優勝（個人）坂本隆磨出場
- ▼第51回北奥羽少年剣道大会（7月30日・青森県南部町立体育館）（団体）ベスト8
- ▼第20回並岡旗争奪軽米町少年剣道大会（8月27日・町民体育館）（団体）準優勝
- ▼第39回三陸沿岸剣道選手権大会（9月10日・宮古市総合体育館）（団体）高学年優勝（個人）坂本隆磨優勝、長内拓準優勝
- ▼第30回ライオンズクラブ県下剣道選手権大会（10月1日・二戸市スポーツセンター）（団体）優勝（個人）長内拓優勝、坂本隆磨準優勝
- ▼第33回県下スポーツ少年団剣道大会（11月3日・県営武道館）（団体）優勝（個人）坂本隆磨優勝、長内拓準優勝
- ▼第15回千葉周作顕彰少年剣道錬成大会（12月10日・陸前高田市民体育館）（団体）ベスト16
- ▼第4回イーハトーヴ剣道大会（平成19年1月7日・花巻市総合体育館）（団体）ベスト8
- ▼第35回青森県小学生剣道錬成大会（2月18日・青森県三沢市立武道館）（団体）3位（個人）坂本隆磨3位
- ▼第6回伊藤道場杯剣道大会（3月4日・山形県山形市落合スポーツセンター）（団体）3位（個人）坂本隆磨準優勝



おのてらゆう
小野寺結さん（左）
佐藤沙紀さん
（ともに軽米小6年）

昨年7月の全日本大会で、初めて全国大会に出場したときは、相手も強くて、とても緊張してしまいました。全国大会も2回目なので、自分たちの力を出せるように頑張りたい。チームとして上位入賞を、個人としても勝ち星をめざします。



軽米雁舞館主将
さかもとりゅうま
坂本隆磨くん
（軽米小6年）

今年は、出場する全ての大会を優勝するつもりで戦ってきた。唯一8月の並岡旗争奪大会で優勝できなかったのが悔しい。全国大会が雁舞館での最後の大会になるけど、予選を突破し、決勝リーグでも上位入賞をめざしたいです。

延べ250人が熱戦を展開

第29回町長杯卓球選手権大会

第二十九回町総体の卓球競技第二十六回大会が二月十八日、町民体育館で行われました。十四チーム二百三十人あまりが参加し、ブロックごとに総当たり戦で熱戦を展開。Aブロックでは山内チームが全勝で優勝を飾りました。

【A】①山内（3勝）

②円子（2勝1敗）

③小軽米（1勝2敗）

【B】①笹渡（4勝）

②観音林（3勝1敗）

③小玉川（2勝2敗）

【C】①上館連合（4勝）

②米田（3勝1敗）

③本町（2勝2敗）

第二十九回町長杯卓球大会が二月四日、町民体育館で開催されました。小学校一年生から一般の部まで、町内外から延べ二百五十人あまりが参加。会場内の各コートでは、優勝をめざして熱い戦いが展開されました。各種目ごとの優勝者と優勝チームは下記のとおりです。



力強い声援が館内に響いた力デット団体

町長杯卓球大会の優勝者・チーム（敬称略）

- <ホープスミニ男子> 百鳥 礼（笹渡小3年）
- <ホープスミニ女子> 平内瑠梨（観音林小4年）
- <ホープス男子> 小笠原涼馬（観音林小5年）
- <ホープス女子> 小林杏里（観音林小5年）
- <カデット男子団体> 晴山中
- <カデット女子団体> 福岡中A
- <カデット男子個人> 小林竜也（晴山中2年）
- <カデット女子個人> 山本愛奈（福岡中2年）
- <アマチュア男子> 小林福正（観音林南）
- <アマチュア女子> 小笠原玲子（上谷地渡）
- <一般男子> 小笠原一臣（福岡工高2年）
- <一般女子> 橋場さとこ（町卓球協会）

卓球競技に14チーム 第29回町総体



シングルのほかダブルスの試合でも盛り上がりを見せた町総体

町民みんなが

主

役に
なる
日

第5回 町民生涯学習 フェスティバル

第5回町民生涯学習フェスティバル（住民の手による生涯学習フェスティバル実行委員会主催）が2月11日、農村環境改善センターで行われました。昭和62年に「生涯学習の町」を宣言してから20年。本フェスティバルも5回目を数え、「生涯学習」がわたしたちの身近な活動として定着してきました。ボランティアスタッフと出演者、それに300人ももの観客が共につくり上げたフェスティバルの様子を紹介します。



目ごころの活動成果を披露した軽米高校音楽部の皆さん



中国からのお嫁さんたちによるおげさ音頭（日本山西会軽米支部）



自慢ののどで「津軽平野」を熱唱した兼田太郎さん



九段の母を踊る村上ミヤさん



書道展も開催



観客からは最後まで盛大な拍手が送られました

20年目を迎えた 生涯学習の町

町は、豊かな人間性と国際的にも広い視野を持った人材育成、個性豊かな文化活動の活性化を進めようと昭和六十二年に全国に先がけて「生涯学習の町」を宣言しました。以来、各行政区や団体・グループなど生涯学習推進員百人への委嘱や、町民大学の開催など、住民が主体となって、地域や世代、分野を越えた幅広い活動が行われてきました。

各地区で実施されている生涯学習への取り組みを紹介します



【下新町町内会で料理講習会】同地区の食生活改善推進委員（ヘルスマイト）の企画による料理講習会が2月18日に下新町公民館で開催されました。この日は旧暦の大晦日にあたる日で煮しめや、端午の節句にちなんだ五目ちらし寿づくりに約50人が参加しました。

【増子内農村振興会館でソバ打ちと雑穀おやつづくり】増子内地区では2月8日にソバ打ち、20日には雑穀がんづきづくりを開催。各日とも20人ほどが集まって、雑穀を使ったおやつ作りに腕を振るいました。食生活改善推進委員が指導しながらの活動は好評を得ていました。



【観音林東地区でつまご作り】観音林東地区では1月28日、昔ながらの技を応用した「つまご作り」に挑戦しました。フラ細工職人の平春治さん（観音林東）の指導のもと、柔らかな生地を使用し、室内などでも使えるものに仕上げました。参加者は、昔懐かしい手づくり作業に熱中し、楽しんでいました。



本田ミツさん（右）と孫の真成さん



踊り演劇を披露した円子よさこい組「どっこいしょ」



かわいらしい遊戯をみせた軽米幼稚園児たち



ダンス（写真左、向川原婦人会）や踊りを（写真右、高山コノエさん）なども披露



元気いっぱいの演舞を見せた軽米フェニックスカントリークラブ

この日のステージは、あおぞらの会によるあおぞらパンドの曲で幕開け。舞踊や歌、郷土芸能、ヨサコイなど全二十七組、延べ百八十人あまりが出演し、約五時間にわたって繰り広げられました。司会を務めた副会長でもある古館壽郎さん（横枕）のユイモアあふれる進行も、会場

町民生涯学習フェスティバルは、平成十五年三月に第一回を開催。ボランティアスタッフが主体となって、住民の手による生涯学習フェスティバル実行委員会（松村慶一会長）の主催により取り組まれています。

作品展示や売店も学習成果の発表会 会場の玄関ロビーには、ふれあい作業所のガラス彫り絵、書道展示コーナーも設けられ、来場者の目を惹きつけたほか、農産物直売所「ノースン」による豆腐田楽やみそ餅といった郷土食の売店も開かれ、賑わいをみせていました。

次回の開催に向けみなさんの力を 次回のフェスティバル開催には、あなたのアイデアと日ごころの成果を生かしてみませんか。

協力金のお願いに多くの支援 前回の開催から、来場者な

内を和やかな雰囲気包み込みました。会場に訪れた約三百人の観客は、惜しみない拍手を送るなど、最後まで楽しんでいました。

平成18年度軽米町体育協会表彰 被表彰者（敬称略）

【優秀選手】小中高生一般

卓球	小笠原涼馬	観音林小5年
	赤羽里佳	軽米高3年
	小林里美	軽米高3年
	南志歩	軽米高2年
	長井喜美	軽米高2年
	本田麻童香	盛岡女子高2年（晴山中卒）
ソフトテニス	山下彩花	軽米小3年
	田澤友佳	軽米小3年
	工藤 冴	軽米小3年
	滝沢恵実	軽米小5年
	松長根美咲	軽米小5年
	横井内綾子	軽米中2年
剣道	川原木智子	軽米中2年
	小笠原龍介	軽米中2年
	木村恭也	軽米中2年
	田畑あやか	軽米高3年
	坂本隆磨	軽米小6年
	長内 拓	軽米小6年
	戸草内洋輝	軽米高1年
	佐々木敦美	門前
	佐藤暢芳	本町

【優秀団体】小中高生一般

県立軽米高・卓球部女子
軽米中・男子ソフトテニス部
軽米中・女子ソフトテニス部
軽米雁舞館スポーツ少年団
軽米町ソフトテニス協会
軽米町クレール射撃協会



生涯学習フェスティバルの席上で行われた平成18年度町体育協会表彰式

心躍る高校生ボランティア演劇



カツラと大名衣装、舞台化粧をした高校生の演劇を楽しむ施設利用者の皆さん

福祉ボランティア活動に取り組む県立軽米高校JRC部（大久保麻衣部長、部員五人）が二月一日、三日、五日に町内の福祉施設で演劇による慰問活動を行いました。演劇は初めての挑戦でしたが、趣向を凝らした衣装や江戸時代の軽米の鉄山を舞台にした人情味あふれる物語に、観客は笑ったり涙を浮かべたりしながら楽しんでいました。観劇した高澤サトさんは「軽米の鉄山について知るきっかけにもなつて、楽しかったです」と笑顔で話していました。

今年の花壇づくりをスタート

町を彩る地域や学校花壇など二十三団体、家庭花壇の四人の方が参加した第十八回花いっぱいビューティ軽米推進コンクールの表彰式が二月二十三日、役場で行われました。表彰式に続いて行われたフラワーアレンジメント講習会には二十五人が参加。桃の節句をテーマに色とりどりの花が小さなこごに飾られました。参加者は「それぞれの花が引き立つよう工夫してみた。家でも実践してみたいですね」などと、一足早く花の季節を楽しんでいました。



桃の節句をテーマにしたフラワーアレンジメント講習会で花壇づくりの発想を膨らませていました

母の気持ち込めマスコット作り



交通安全の気持ちをこめたマスコットづくりに取り組む町交通安全母の会の皆さん

町交通安全母の会連絡協議会（工藤育子会長）の交通安全マスコットづくりが二月二日と三日、農村環境改善センターで行われました。年間を通して交通安全啓発活動に使うマスコットは全て会員による手づくり作業。今回は毛糸で巻きあわせた人形約七百個を作成しました。工藤会長は「子どもたちが巻き込まれる事故は、母親として自分の子どものように心が痛む。改めて交通安全を広く呼びかけていきたい」と意気込みを話していました。

特色ある学校づくりを紹介

子どもたちの学力向上・健全育成に向けた地域教育活動を進める町教育振興運動・青少年健全育成運動集約集会在二月二日、農村環境改善センターで開催されました。各小中高校で取り組む実践区発表や、中学生による力強い青少年の発表、「学校生活を楽しくするには」をテーマにしたシンポジウムなどを開催。地域活動や世代間交流、福祉体験などを通じた取り組みが発表され、参加者は今後の取り組みに向けて熱心に耳を傾けていました。



部活、地域活動、勉強、友人関係など今の学校生活について発表する中高生の皆さん

観小太鼓はぼくらが引き継ぐ

観音林小学校（小平光子校長、児童五十九人）の観小ちから太鼓の引き継ぎ式が二月二十一日、同校体育館で行われました。全校児童と父母ら約六十人が見守る中、六年生が最後の力強いバチさばきを披露。六年の古里由希さんが「ちから太鼓の伝統を頼みます」とバチを差し出すと、五年の古館和希くんが「先輩から学んだものをしっかり伝えていきます」と引き継ぎました。観小ちから太鼓は平成四年に始まり、上級生から下級生へと継承されています。



卒業する6年生からバチを受け継ぎ、力強い演奏を見せた3年生から5年生までの児童

どっこいしょ結成5年を祝福



「どっこいしょ」の小中学生による威勢の良い演舞に観客は魅了されていました

円子よさこい組「どっこいしょ」（宮本健一代表）の創立五周年を記念した芸能まつりが二月十八日、円子小体育館で開催されました。同団体の演舞のほか、地区民による歌や踊りなど多彩な芸も繰り広げられ約二百人の観客は華やかな舞台を楽しみました。宮本代表が「皆さんの声援が嬉しくて五年間やってこれた。今後ともよろしく願います」とあいさつ。同団体は平成十五年に結成以来、町内外のイベントや福祉施設の慰問活動などを行っています。

昭和60年10月31日姉妹提携 音更町だより

親子あそびの広場「節分」が1月26日に開かれ、20組の親子が楽しみました。鬼の豆入れを作った後、保育士が鬼に変装し登場。現れた鬼に、子ども達は豆をぶつけることもできず、泣くばかり。怖さのあまり「もう帰ろうよ」とおかあさんに訴え、帰り支度を始める子もいました。



鬼につかまれて大泣きする子ども

丈夫に育つ

元気に働く

健やかに老いる

健康づくりに検診をお役立てください
～申し込みを忘れた方も受けられます～

今年も4月の胃検診から始まり、がん検診や基本健康診査が行われます。それぞれの検診が近くなったころ、申し込みがあった方に区長さんを通して通知書をお届けします。

検診の受け付けの際に用紙を回収できなかった方や記載漏れのあった方には、できる限り確認を取るようにしましたが、連絡の取れなかった方には通知書が届かないことがあるかと思えます。

通知書が届かない方で「検診を受けたい」という方は、今からでも健康福祉課・健康づくりグループ（健康ふれあいセンター内 x4 6-4 1 1 1）にご連絡ください。

また、申し込みの時は受けないことにしたが「受けたくなった」という方も、同じく受けることができます。

自分のからだに関心を持つきっかけに、ぜひ健診をお役立てください。



健康福祉課主任保健師 日向 安子

プロフィール
 【氏名】 Shawn MacDonald (ショーン・マクドナルド)
 【国籍】 カナダ
 【生年月日】 1982年6月9日生 24歳
 【略歴】 ゲルフ大学卒。2006年8月3日から町の英語指導助手。趣味はスキー。



ウメキのつづき日記

Umeki-san: Hello Shawn, how have you been this past month? Keeping warm I hope?!

梅木: ショーン、この1ヶ月どうしてた? 暖かくしてた?!

Shawn: Hi Umeki-san, I've been fine thank you! I've been keeping busy and making the most of the winter weather on my weekends. I've been up to Hokkaido to see the Sapporo Snow Festival, and I am learning how to snowboard!

ショーン: こんにちは、梅木さん。大丈夫ですよ。週末は結構忙しかったけど、冬を楽しみました。雪まつりを見に札幌に行って来たし、今はスノーボードに挑戦中です。

Umeki-san: How was the Sapporo Snow Festival?

梅木: 札幌の雪まつりはどうだった?

Shawn: The weather was de pitefully chilly, but the beautiful ice and snow sculptures on display more than made up for the cold. I got to try some new foods as well. I had lamb for the first time and I even tried a deer burger! It was delicious! I did have a bad experience though; I lost my wallet while getting out of a taxi, and didn't have any money or identification for the rest of the weekend.

ショーン: 天候は確かに寒かったけど、氷と雪の像は寒さも忘れられるくらい美しかったです。初めてラム肉を食べてみたし、なんと鹿の肉のバーガーにもトライしたんです。うまかったなー。でも悪い経験もしたんです。タクシーを降りる時にサイフを落としちゃって、週末の間お金は全然無いし、身分証も無いし。

Umeki-san: Oubeika! - Slaps Shawn on the head - What will you do without your wallet?

梅木: 欧米か! (ショーンの頭をたたく) サイフが無かったらどうするの?

Shawn: Well, after I arrived back in Karumai, I was very lucky! I received a phone call from a person who found my wallet in Sapporo! They found it on the street in the snow and used information on one of my cards to contact me. They were very kind and had it mailed to me here in Karumai. I was very fortunate.

ショーン: でも、凄くラッキーだったんです。軽米に着いてから、札幌で僕のサイフを拾った人から電話があって。通りの雪の上で見つけて、僕のカードから住所を知って連絡して来たんです。とても親切な人たちで、軽米に郵送してくれたんです。すごく幸運でした。

Umeki-san: Yes, that is very fortunate indeed! Be more careful next time!

梅木: 本当に運が良かったね。次からはもっと気をつけなきゃね。

笑顔あつまれ! みんなの広場

我が家の人気者 すこやかさん



ふじわら はゆま 藤原 隼磨 くん (2歳11カ月)
 愛称: はゆ
 (下新町) 陽介さん・美雪さんの長男

ちよつとの寒さでもお外で走り回るのが大好きな、元気いっぱいなのはゆくん。最近では、いろんな言葉覚えることに興味津々で、毎日のように読み書きをしています。ひらがなやカタカナはもちろん、ABCなどのローマ字も得意になりました!

夢・希望・えんぴつ

汗がだらだらと流れ落ち、息が苦しくなる。もうやめてしまいたい。みんなの「がんば!」という声に励まされて次のメニューに進む・・・。

体力づくりは、笹渡中の伝統です。秋の地区駅伝で好成績を取るために、全校生徒で取り組んでいます。

ぼくは、今年の冬から体力づくりのリーダーになりました。「みんなをしつかりまとめて、本気で練習させよう!」とぼくはやる気満々でした。

冬休みは、持久力向上と筋力アップを目指し、サーキットトレーニングに取り組みました。腹筋や反復横とびなど

陸上リーダーとして



笹渡中学校2年 (鶴飼) おおやち まさる 大谷地 大

どのメニューを聞いたときには「たいしたことないな」と思いましたが、実際には倒れそうになるほどきついもので

運動が得意な人も苦手な人も一緒に頑張って取り組む体力づくりは、笹渡中の原動力だと思います。これからもみんな頑張っていきたいです。

今月の雑穀献立



雑穀入り 長芋つつみ

- 【材料】 4人分
- ・モチアワ……………30g
 - ・ヒエ……………30g
 - ・モチキビ……………60g
 - ・モチ米粉……………200g
 - ・長芋……………50cc
 - ・こしあん……………100g
 - ・水……………70cc
 - ・砂糖……………150g
 - ・食紅……………少々



考案者の 田代ヒデさん (新井田)

- 【作り方】
- ①アワ、ヒエ、キビをやわらかめに煮る
 - ②長芋をおろし金ですりおろし、水と食紅を入れて混ぜる
 - ③モチ米粉に砂糖を入れ、更に①と②を加えてこねる
 - ④③を30㍉(指でつまむ)程度取り、こしあんを入れ、形を整えてできあがり

古文書で見ると
 軽米の歴史
 村方警衛帳

前回に引き続いて、村方引き継ぎの文書には村方の治安維持を定めた「村方警衛帳」がある。

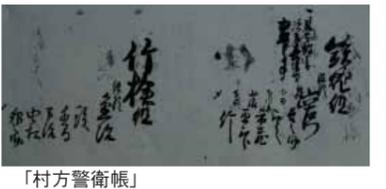
現代は、火事では消防署、盗賊や悪事などの事件には警察署があるが、江戸時代には村方の者の自治で行われた。その取り決めごとを記したものが「村方警衛帳」である。

村方の住民の名前、人数を調べ、それにより組をつくり名主を長とした。火事や事件が発生すると、名主の指揮でほら貝を吹き、太鼓を叩き、また小太鼓を叩きながら触れ回る者など、村民に事件の発生を知らせた。

事件の発生を知った村民は、大急ぎでその場所へ詰め、事件の解決にあたった。在宅していないがら事件の場所へ駆けつけない者は処罰された一方、格別の働きをした者へは褒美が出た。

これらのことは、五人組の組頭の中から選ばれた乙名、名主によって取り決めた。火事などの道具は桶、鳶口、梯子、柄杓、団扇などであり、悪者を取り押さえる道具は、刺股という鉄製の先が二つに分かれ、木製の長い柄が付いたものや、竹槍、鉄砲、縄などがあった。

当時は、盗賊の横行、博打による被害が多かったため、火事と同様に村方が自分たちで村や村民を守った。(町古文書解説)



「村方警衛帳」

今月の俳句

北光吟社 一月例会

くつきりと稜線浮かし初明り
 三上千栄女

暮れの空最後の雁が今日も行く
 端川石造

冬川の鷺の降り立つ石まろし
 松村英子

革靴に替へ大寒のバスを待つ
 早川慶子

露の臺小さを摘みて汁の実に
 中野とき

熱燗の加減みる妻類そめて
 千葉紅園

春の陽をさがしソーラー腕時計
 淵沢鉄馬

そば打って客をもてなす寒の入り
 川島由蔵

正月の温泉や孫に手を引かれ
 国久黄実

老いの日日もて余し居る冬はじめ
 永井きよの

読初や作者の逝去悼みつつ
 古里裕子

お知らせ
情報
Information



まずは6年生が最後の手本を示した観小ちから太鼓の引き継ぎ式



伝統のバチを後輩に託します



先輩たちの力強い演奏をめざして



立派な演奏で引き継ぎ式を飾った後輩たちの心意気に皆さんも惜しめない拍手を!

国家公務員Ⅰ・Ⅱ種
採用試験を受け付け

国家公務員試験(Ⅰ・Ⅱ種)を次のとおり行います。申し込み方法など詳しくは人事院東北事務局へ問い合わせください。

▶受付期間
▷Ⅰ種: 4月2日(月)~9日(月)
▷Ⅱ種: 4月13日(金)~24日(火)

▶1次試験日
▷Ⅰ種: 4月29日(日)
▷Ⅱ種: 6月17日(日)

【問い合わせ先】人事院東北事務局 (☎022-221-2022)

意欲ある国税官募集
大卒程度の試験受付

仙台国税局では、大学卒程度の「国税専門官」を募集します。

▶受付期間
4月2日(月)~13日(金)

▶受験資格(次のいずれかに該当すること)
▷昭和53年4月2日から昭和61年4月1日生まれの方
▷昭和61年4月2日以降生まれの方で、①大卒または平成20年3月までに大学を卒業見込みの方、②人事院が①と同等と認める方

【申込の請求・問い合わせ先】仙台国税局人事第二課 (☎022-

町議会議員選挙の立候補予定者説明会を開催

任期満了に伴う町議会議員選挙の日程は、次のとおりです。

★立候補予定者説明会

日時: 平成19年3月16日(金) 午後1時30分~
会場: 役場庁舎3階会議室

*告示日: 平成19年4月17日(火)
*投票日: 平成19年4月22日(日)

【問い合わせ先】町選挙管理委員会 (☎46-2111 内線351、352)

-263-1111) または二戸税務署 (☎23-2701)

土地家屋について
気軽に相談ください

県土地家屋調査士会二戸支部では、4月1日の「表示登記の日」に無料相談会を開催します。建物の新築、土地の分筆、境界問題などお気軽にご相談ください。

▶日時: 4月1日(日) 10:00~15:00
▶会場: 二戸市ピックセンター
▶相談内容: 土地の分筆・合筆・地目変更、建物の新築・増築、滅失登記、土地・建物の調査測量、境界問題など

【問い合わせ先】岩手県土地家屋調査士会二戸支部 (☎22-1235)

不動産登記事務が
コンピュータ処理に

盛岡地方法務局二戸支局での不動産の登記事務が、本年3月12日(月)からコンピュータによる処理になるため、次のように変わります。

- ①登記簿謄・抄本から
⇒「登記事項証明書」の発行に変わります(1通1,000円、郵送による請求可)
 - ②不動産登記の閲覧から
⇒一定の登記事項を要約した「登記事項要約書」の発行に変わります(郵送での請求不可)
 - ③インターネットで不動産登記事項が確認できる「登記情報提供サービス」を導入
- ※登記申請事務手続きや各種図面の閲覧はこれまでどおりの処理を行います

【問い合わせ先】盛岡地方法務局二戸支局 (☎25-4811)

引越しでのトラブル
防止に相談所を開設

岩手県トラック協会では、就職・進学・転勤などによる引越しシーズンを目前に控え、電話などによる「引越し相談所」を開設しています。引越しに伴う相談や困りごとなど、お気軽にご相談ください。

▶開設日時
▷電話受付: 月から金曜日までの午前8時30分から午後5時まで(祝祭日、お盆、年末年始を除く)
▷ファクシミリ受付: 随時

【問い合わせ先】県トラック協

会本部 (☎019-637-2171 / Fax019-638-5010)

交通事故が起きたら
無料相談にお電話を

日本損害保険協会では、交通事故の無料相談を行っています。保険の専門員が、保険金の請求や手続きについてお応えします。

▶相談日時: 月~金曜日の午前9時~午後5時(祝日除く)
▶弁護士無料相談: 第2・第4水曜日の午後1時から午後4時まで(予約制、要面談)

【問い合わせ先】盛岡自動車保険請求相談センター (☎019-651-4495)

内科	休日当番医	歯科
松井内科医院 (☎33-2201)	一戸町本町 3月18日(日)	関歯科医院 (☎38-2937)
菅整形外科・皮膚科クリニック (☎23-7311)	二戸市石切所 21日(祝)	窪島歯科医院 (☎23-2425)
小野寺クリニック (☎46-2822)	軽米町門前 25日(日)	曾根歯科医院 (☎27-3108)
小野寺内科医院 (☎33-2505)	一戸町高善寺 4月1日(日)	三澤歯科医院 (☎23-2445)
斎藤産婦人科医院 (☎23-2505)	二戸市石切所 8日(日)	小野寺歯科医院 (☎33-3050)

戸籍の豆知識

戸籍届と住所変更

春は、例年婚姻届などの戸籍届が多く提出されます。その際、戸籍届を提出しただけでは住所までは変更になりません。戸籍とともに住所も変更になる場合には、手続きが必要です。

【問い合わせ先】役場・町民生活課 (☎46-4735)

名字や住所などが変わる場合には、国民健康保険証や各種医療費受給者証、年金手帳などの変更も行う必要がありますので、届出の際には、印鑑と一緒にご持参ください。

図書館だより

— 今月の新刊 —

【児童書】

「メアリー・スミス」

文・絵: アンドレア・ユーレン



朝、夜明けはまだまだ先なのに、メアリーさんはもうおでかけ。ゴムのチューブに豆をこめ、吹いて飛ばす仕事とは?

「おりがみでおみせやさん」

著: いまいみさ
折り紙、色紙、リサイクル素材などで簡単にできるお店屋さんごっこ。このアイデアが満載! みんなで楽しく作りましょう。



【一般書】

「天使と悪魔」

著: ダン・ブラウン



「ダヴィンチ・コード」でおなじみの著者によるミステリー小説。作中に登場する美術作品や建築物などのカラー図版も収録された美しい一冊。

「丸屋米子の
パッチワーク仕事」

著: 丸屋米子

古い着物などの布を使ったパッチワークで作る洋服、バッグ、小物などを紹介。著者は青森県五戸町在住。



図書館利用案内

開館時間...火~金 9:00~18:30
土、日 9:00~16:00
貸出条件...1人5冊まで2週間
休館日...月曜、月末、祝祭日
どうぞご利用ください

税の豆知識

記帳や記録保存と青色申告

【問い合わせ先】二戸税務署 (☎23-2701)

個人事業主や不動産収入のある方は、1年分の所得を正しく計算し、3月15日までに申告して所得税を納税しなければなりません。

■記帳制度と記録保存制度(白色申告者)
前々年または前年分の所得合計

額が300万円を超える場合は、帳簿をつけて一定期間保存が必要。前年に確定申告をした方も帳簿や書類を一定期間保存が必要。

■青色申告制度
精度の高い帳簿をつけていると所得計算で特典があります。

確定申告はお早めに

町県民税と所得税は3月15日(木)まで
個人事業者の消費税・地方消費税は4月2日(月)まで

町のこよみ・かるまいカレンダー

3月 March

16	金	
17	土	
18	日	町バドミントン大会【体】
19	月	介護予防教室しゃっきとクラブ【ふ】
20	火	
21	水	【春分の日】
22	木	あのなっす相談所【老】 10:00～15:00
23	金	介護予防教室しゃっきとクラブ【晴山公民館】
24	土	にこにこ広場【軽米保育園】 9:30～11:30
25	日	夜間と休日の納税相談【役場・税務会計課】～27日
26	月	
27	火	二戸地区法律相談【二戸市役所】 10:00～15:00 (予約 ☎23-3111)
28	水	ピヨピヨ教室【ふ】 10:00～12:00
29	木	あのなっす相談所【老】 10:00～15:00
30	金	
31	土	

4月 April

1	日	山火事防止パレード【町内】 9:00～
2	月	
3	火	胃がん検診【晴山公民館、晴山農業構造改善センター】 6:00～8:30受け付け 第56回 1才馬匹共進会・岩手南部駒 1歳馬せり市【軽米家畜市場】 11:00～
4	水	胃がん検診【ふ】 6:00～8:30受け付け 乳児健診【ふ】 13:00～13:30受け付け H18年5月、8月、11月、H19年1月生まれ対象
5	木	胃がん検診【小軽米生活改善センター】 6:00～8:30受け付け あのなっす相談所【老】 10:00～15:00
6	金	胃がん検診【米田農業構造改善センター、笹渡農業構造改善センター】 6:00～8:30受け付け
7	土	
8	日	【県知事・県議会議員選挙投票日】 胃がん検診【役場】 6:00～9:00受け付け
9	月	胃がん検診【円子生活改善センター、屋敷自治公民館】 6:00～8:30受け付け
10	火	胃がん検診【山内農業構造改善センター、高家生活改善センター】 6:00～8:30受け付け 二戸地区法律相談【二戸市役所】 10:00～15:00 (予約 ☎23-3111)
11	水	胃がん検診【役場】 6:00～8:30受け付け ピヨピヨ教室【ふ】 10:00～12:00
12	木	成分献血【役場】 10:00～12:00、13:00～16:00 あのなっす相談所【老】 10:00～15:00
13	金	
14	土	にこにこ広場【軽米保育園】 9:30～11:30
15	日	

(カレンダー中の開催場所については【 】で下記のとおり表示します)
 体:町民体育館 環:農村環境改善センター 公:中央公民館 図:町立図書館
 病:県立軽米病院 ふ:健康ふれあいセンター フ:雪谷川ダムフォレストパーク・軽米
 ミ:ミレットパーク 歴:歴史民俗資料館 ハ:ハートフル・スポーツランド 運:町営運動場 ゲ:ゲートボール場 野:高校野球場



発行/岩手県軽米町 編集/総務課
 (毎月第2水曜日発行)

〒028-6302 九戸郡軽米町大字軽米10-85
 TEL0195-46-2111代 FAX0195-46-2335
 URL http://www.town.karumai.iwate.jp/

ある日の風景

仲町の軽米駐在所前に光り輝く「大事にしよう地域のきずな」の文字。町商工会青年部(長瀬徳彦部長)が、地域を愛し大切にしようとの願いを込め制作したもので、道行く人々を優しく見守ってくれています。



冠婚葬祭 1月届出分

<敬称略>

おめでた

荒町 小野寺 日和 (健一)	高清水 池端市太郎 (82歳)
松ノ脇 松田 徠晟 (鉄幸)	観音林東 神久保義男 (69歳)
上新町 高橋 陽奈 (陽介)	門前 欠端茂光 (74歳)
向川原 岸里 みゆき (甚作)	外川目 関向八男 (72歳)
下新町 畑澤 寧々 (光行)	河北 一條キヨ (96歳)
上新町 上柿 銀大 (津也)	七ツ役 江刺家茂春 (60歳)
貝嶺 小笠原 愛華 (常雄)	上晴山 小笠原喜代治 (76歳)
	下新町 中里キワ (95歳)
	山田 日影スエ (88歳)
	萩田 小笠原節子 (86歳)
	蛇口 西館キサ (88歳)
	長倉 畑澤キヌ (93歳)
	本町 長瀬ヤス (76歳)
	小玉川 山下トス (76歳)
	小玉川 山下正春 (6歳)
	笹渡 下向ナホ (80歳)
	戸草内 戸草内藤松 (80歳)
	車門 福島留五郎 (96歳)
	門前 門前フヂ (90歳)
	和当地 山野内兼松 (86歳)

おしあわせに

{ 松山 隆憲 (松ノ脇)
{ 工藤 今日子 (八戸市)
{ 中野 剛司 (萩田)
{ 畑 美樹 (洋野町)

おくやみ

上野場 野林 勇 (79歳)
大久保 下畑カヨ (88歳)

●人の動き <平成19年1月31日現在/町民生活課調べ>

男 5,610人 (-9)	女 5,784人 (-1)
合計 11,394人 (-10)	世帯数 3,763 (+5)
※()は前月比	
転入 13人 (13人)	転出 9人 (9人)
出生 8人 (8人)	死亡 22人 (22人)
※()は1月からの累計	

ほっとひといき / 編集後記
 救命の現場は、想像以上に緊張感と時間的な制約の中で行われているものと痛感。加えて冷静と、沈着な判断と技術も必要とされる。普段の訓練の重要性を再認識しました。肺蘇生法講習を先日受講しました。見てのど、実際行うのとはまったく異なり、やればやるほど身によくつく。実際、倒れている人にできるかどうかは不安だが、知識と手順を覚えているだけでも、人を助けることができることもある。皆さんも一度体験してみてください(義信)